

平成26年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成26年4月22日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 119人 国語B 119人

② 算数A 119人 算数B 119人

5 留意事項

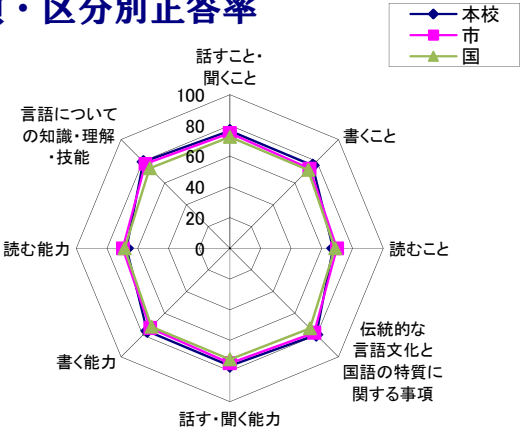
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」, 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

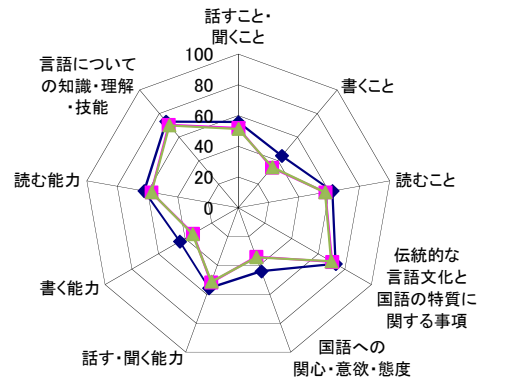
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	76.5	74.9	72.4
	書くこと	76.2	73.4	72.2
	読むこと	67.2	69.7	68.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.6	77.8	73.7
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	76.5	74.9	72.4
	書く能力	76.2	73.4	72.2
	読む能力	67.2	69.7	68.5
	言語についての知識・理解・技能	79.6	77.8	73.7



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	55.7	51.9	51.2
	書くこと	44.0	34.0	34.4
	読むこと	62.2	57.5	57.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.1	70.5	69.8
観点	国語への関心・意欲・態度	44.0	34.0	34.4
	話す・聞く能力	55.7	51.9	51.2
	書く能力	44.0	34.0	34.4
	読む能力	62.2	57.5	57.3
	言語についての知識・理解・技能	73.1	70.5	69.8



★国語に関する質問紙調査の状況

○ 国語の授業が好きである児童が67.2%, 国語で資料を読み自分の考えを話したり聞いたりしている児童が81.5%, 意見発表で上手く、伝わるように話の組み立てを工夫している児童が70.6%, 自分の考えを書くとき理由がわかるように気をつけて書く児童が83.2%, 文章の読みでまとまりごとの内容を理解して読むと答えた児童が83.2%と平均を大きく上回っている。国語の学習に、理解する・伝えることを意識して取り組んでいることが分かる。

● 平均を下回った項目は、「読書は好きですか。」の67.3%であった。「調査問題の解答時間は十分でしたか。(国語A)」が、86.6%で市の平均を1.8%下回ったが、国平均は1.1%上回っている。多くの本に触れる機会を設け、読書の習慣化を図りたい。

★指導の工夫と改善

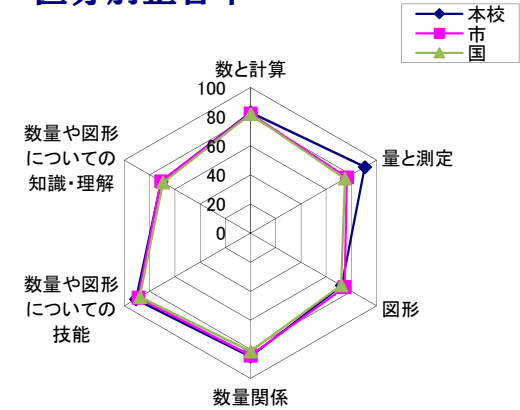
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○Aの領域の平均正答率は76.5%で、国平均より4.1ポイント、市平均より3.8ポイント高い。 ○Bの領域の平均正答率は55.7%で、国平均より4.5ポイント、市平均より3.8ポイント高い。 ●立場を明確にして質問や意見を述べる設問の正答率が40.3%で、全国・県よりは高いが、他の設問に比べ低くなっている。人と自分の意見とを比べながら聞き、違いや主張をはっきり表すことが苦手な傾向がある。	○良好なもの ●課題が見られるもの ・日頃から、友達の意見や発表を聞くこと、自分の考えや思いを伝えることを意識させて、授業やスピーチに取り組めるように場の設定を図っていく。 ・一人一人が人前で自分の考えを表現する機会を多く設定し、わかり易い話し方を互いに学び合うよう配慮し、スキルの向上を図る。
書くこと	○Aの領域の平均正答率は76.2%で、国平均より4ポイント、市平均より2.8ポイント高い。 ○Bの領域の平均正答率は44.0%で、国平均より9.6ポイント、市平均より10.0ポイント高い。 ○表現に必要な内容を選択し、正しい文で書く設問の正答率はどの設問も全国・県より上回り、書く力が身に付いている児童が多いと言える。	・伝えたいことをわかり易く表現する構成や、標準的な文章の構成について、他教科との関連を図りながら学習に取り組ませていく。 ・行事や季節などと連動して、児童の書きたい思いを逃さずに表現させるようにし、書くことに苦手意識を持たず意欲的に表現できるよう配慮した学習計画を立てていく。
読むこと	●Aの領域の平均正答率は67.2%で、国平均より1.3ポイント、市平均より4.7ポイント低い。 ○Bの領域の平均正答率は62.2%で、国平均より8.2ポイント、市平均より4.7ポイント高い。 ●新聞の投書の内容を読み、適切な表現を捉える設問の正答率が全国・県より低くなっている。文の構成を読み取りわかり易く表現することに課題がある。	・文章の内容を正しく読んだり、登場人物の心情などを読み取ったりするには、言葉の意味を正しく理解し文章表現を読んでいくことが大切である。読書指導を含め、様々な文章を読む機会を作り読解力の向上を図りたい。 ・接続詞・助詞などの使い方を理解し、文章に書かれた内容を文法に則り正しく読み取る学習を繰り返していくことで、読みの力をつけていくよう指導を工夫したい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○Aの事項の平均正答率は79.6%で、国平均より5.9ポイント、市平均より1.8ポイント高い。 ○Bの事項の平均正答率は73.1%で、国平均より4.5ポイント、市平均より2.6ポイント高い。 ○関連する12問中漢字の読み・書き各1問ずつ以外の設問で、全国・県の正答率は上回っていた。全体的に理解できている内容が多い。	・漢字の読みについては、日常的な反復練習を継続し習った漢字は使う習慣を身に付けるよう指導していく。 ・詩や俳句などの創作や鑑賞の機会を活かして、言葉から心情や情景を想像して味わう力をつけるように配慮していきたい。

宇都宮市立豊郷中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

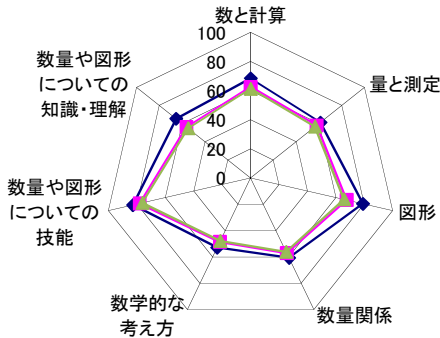
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と計算	82.9	82.2	81.8
	量と測定	90.7	76.4	74.8
	図形	72.3	74.5	71.8
	数量関係	84.9	84.2	81.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	91.0	89.1	87.9
	数量や図形についての知識・理解	70.8	71.1	69.5



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と計算	68.5	62.6	61.3
	量と測定	61.3	58.0	56.5
	図形	79.0	67.5	65.7
	数量関係	60.7	57.1	56.2
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	52.9	48.6	47.8
	数量や図形についての技能	82.8	78.1	76.2
	数量や図形についての知識・理解	65.3	56.3	54.8



★算数に関する質問紙調査の状況

○良好なもの ●課題が見られるもの

○ 算数の授業が好きである児童が78. 2%, 算数の勉強が大切であると答える児童が98. 3%と平均を大きく上回っている。また、新しい問題に出
合ったとき解いてみたいと答える児童が86. 6%, 問題解決が困難な時も諦めずに頑張る児童が87. 4%と意欲的に挑戦していることが分かる。
● 平均を下回った項目は1つだけであった。「調査問題の解答時間は十分でしたか。」が、54. 6%で0. 6%下回った。文章問題にも慣れるように学

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○Aの領域の平均正答率は82. 9%で、国平均より1. 1ポイント、市平均より0. 7ポイント高い。 ○Bの領域の平均正答率は68. 5%で、国平均より7. 2ポイント、市平均より5. 9ポイント高い。 ●小数の入る計算にやや課題が見られる。	・計算力はおおむね向上しているが、通分を必要とする異分母分数の加法や減法を繰り返し、習熟を図りたい。また、示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を記述できるよう、正しく読み取る力を身に付けさせるようにしたり、順序良く考える力を養ったりすることで、学習内容の定着を図っていく。
量と測定	○Aの領域の平均正答率は90. 7%で、国平均より15. 9ポイント、市平均より14. 3ポイント高い。 ○Bの領域の平均正答率は61. 3%で、国平均より4. 8ポイント、市平均より3. 3ポイント高い。 ●2つの数量の関係について、単位量あたりの大きさを調べる場面と図とを関連付けることにやや課題が見られる。	・市全体を考えると、この領域を苦手とする児童が多いと思われる。「単位量当たり」の問題では、数直線や図などを用いて自分で説明する活動を増やして意味をとらえさせていくことで、定着を図っていく。また、示された場面から「基準量と比較量」を捉えることができるよう、力を入れて指導していく。
図形	●Aの領域の平均正答率は72. 3%で、国平均より0. 5ポイント高いが、市平均よりは2. 2ポイント低い。 ○Bの領域の平均正答率は79. 0%で、国平均より13. 3ポイント、市平均より11. 5ポイント高い。 ●作図に用いられている図形の約束や性質を理解することにやや課題が見られる。	・学んでから時間が経つと忘れてしまうこともあるので、意図的に復習を取り入れ、繰り返し学習することにより習熟を図りたい。また、作図に用いられている図形の約束や性質を理解させた上で、作図の機会を増やしていきたい。
数量関係	○Aの領域の平均正答率は84. 9%で、国平均より16. 9ポイント、市平均より0. 7ポイント高い。 ○Bの領域の平均正答率は60. 7%で、国平均より4. 5ポイント、市平均より3. 6ポイント高い。 ●加減乗除の混じった計算でどれから先に計算したらよいのかにやや課題が見られる。	・文章題を読み取る学習を繰り返し行う。文の意味を理解させ、示された情報を整理し、筋道を立てて考え解く力を養っていく。また、比較量を求める学習の際には、具体物や数直線を用いて整理する活動を多く取り入れ、正確に理解できるよう支援していく。

宇都宮市立豊郷中央小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

○友達に自分の伝えたいことをうまく伝えることができる児童の割合が80%、友達の意見などを最後まで聞くことができる児童の割合が90%と、全体的に児童は、友達と良好なコミュニケーションをとっていると考えられる。

○達成感を味わったことがある児童の割合が95%、チャレンジ精神をもつ児童の割合が83%であり、何事にも意欲的に取り組む児童が多いと言える。

○学校は楽しいという児童の割合は83%、学校でみんなと協力すると楽しいという児童の割合が85%で、全体的に学校生活に満足していると考えられる。

○学校の決まりを守っているか、いじめは絶対にだめである、友達との約束を守っているかの肯定割合がどの項目も90%以上であり、全体的に規範意識が身に付いていると考えられる。

○国語・算数は好きかの肯定割合は、ともに約70%であるが、将来のために役立つかについては、どちらも90%を超えている。国語・算数にやや苦手意識はあるものの、学ぶ必要性を感じている児童が多いと言える。

○家で宿題をやると答えた児童の割合は92%であるが、復習をするかは63%、予習をするかは42%と少し下がる傾向にある。

○毎日朝食を食べている児童の割合が97%、毎日決まった時間に寝たり起きたりしている児童の割合も80%を超え、全体的に規則正しい生活をしていると考えられる。

●友達の前で自分の意見や考えなどを発表することができるかの肯定割合は47%と低い。人前での発表が苦手な児童が多いということが言える。やはりこれからも学校生活のあらゆる場を活用し、児童に発表の場を与えていくなど、指導を継続していくことが大切である。

●平日TVゲームなどをどのくらいするかでは、1時間未満と答えた児童の割合が47%であった。今後も保護者に協力をしてもらいながら、節度をもって行うよう指導をしていく必要がある。

●平日学校の授業以外でどのくらい読書をするかでは、30分未満の割合が62%、また、学校図書館や地域の図書館を利用しているかについても、年に数回、ほとんど利用していないを合わせた割合が62%となり、読書の習慣が身に付いていないと言える。これからも読書の必要性を話したり、児童向けの本を紹介したりして、保護者とも協力をしながら、読書の習慣が身に付くように指導を継続していくことが大切と言える。